

令和5年度学校経営方針

1 指導理念

ふるさと(花巻)に学び、ふるさと(花巻)を語れる南城中生を育てる

2 学校経営の姿勢

新しい時代に生き、社会に貢献できる人間性豊かでたくましい生徒の育成を願い、知・徳・体の調和のとれた「人づくり」をめざし、教育目標の具現化に努める。

- (1) 生徒との密接な人間関係、教職員の深い意思疎通と連携を基盤に教育目標の具現化に努める。
- (2) 保護者、地域の願いに応え、生徒の主体的な活動を軸に教育目標の具現化に努める。
- (3) コミュニティスクールの機能を生かし、地域の教育力の活用、小学校や関係機関との連携等、開かれた学校として情報共有を基軸に共に歩む姿勢で教育目標の具現化に努める。
- (4) 時代が変わってもなお欠くことができない教育の「不易」と時代や社会の動きに鋭敏な「流行」を見据え、信念をもって教育目標の具現化に努める。

3 学校教育目標

校訓…【 文武両道 】

「自ら学び 心ゆたかで たくましい生徒」

- 真理をもとめ 進んで学習する生徒
- 明朗で 心身ともにたくましい生徒
- 正しく判断し 行動に責任をもつ生徒
- 自分や他人を尊び 社会性豊かな生徒

(1) めざす学校像

- ・「子どもの夢を育む魅力ある学校」・・・授業、行事をとおして楽しさと自己肯定感を持つ学校
- ・「明るく活気があり、文化のある学校」・・・お互い心通わせ、良いものを創ろうとする学校
- ・「安全で潤いと安らぎのある学校」・・・秩序があり、安全で安心できる学校
- ・「地域に根ざしともに歩む学校」・・・地域に誇りをもち、地域と協働する学校

(2) めざす生徒像

- ・「学び続ける生徒」・・・課題を発見し、その解決に努め、学びの定着に励む生徒
- ・「凛とした美しい生徒」・・・中学生らしい礼節、生活習慣を身に付け、清潔感のある生徒
- ・「活力ある生徒」・・・夢や目標をもち、自信をもって前に進もうとする生徒
- ・「認め支え合う生徒」・・・共に伸びようと協調し、社会性を身に付けようとする生徒

(3) めざす教師像

- ・「授業を大切にする教師」・・・授業力を磨き、学びの意欲を引き出す教師
- ・「生徒に寄り添い成長する教師」・・・生徒に対する愛情を持ち、一人一人の生徒と真剣に向き合

う教師

- ・「信頼される教師」・・・襟を正し、範を示し、生徒、地域、保護者から信頼される教師

4 学校経営の方針

(1) 教育課程の完全実施・・・信頼される学びのために

- ① 教育課程の工夫・精選を進め、授業時数の確保に努めるなど学習の機会を保障する。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をすすめ、学習指導要領で示された資質能力を育成する。
- ③ 週録等を活用し、教育課程の進捗状況を適正に管理する。

(2) 学習指導の充実・・・「わかる・できる」「楽しい」授業をめざして

- ① ねらいを明確にした展開と成果を実感できる振り返りのある授業をつくる。
- ② 「繰り返し学習」や個別指導の徹底により確実な定着をめざす。
- ③ 平日週一回の「部活休養日」と連動させ、「学習相談の日」を設定し、学習の仕方の定着や授業の補足・補充指導ができる時間を保障する。
- ④ 南城スタンダードの推進により、学習規律の向上、および授業と家庭学習の連動を図る。
- ⑥ 組織的に学習定着度状況調査等、客観的な検査の結果を分析し、指導の改善に努める。
- ⑦ 保護者、地域に対して、授業参観を実施し、生徒の実態を共有する。

(3) 心の教育の充実・・・まずは「道徳の時間」の充実による基盤づくりから

- ① 道徳年間指導計画に基づき、教育活動全体の中で道徳教育を推進する。
- ② 教科「道徳」の趣旨の共有を推進し、授業の充実を図り、道徳的実践力を培う。
- ③ 計画的に「道徳の時間」の授業を公開し、保護者や地域の理解を深める。

(4) 学年・学級経営の充実・・・「自分の居場所」づくりのために

- ① 常に高いアンテナを張り、生徒の理解に努め、学校不適應、問題行動の未然防止に努める。
- ② 学級のリーダー育成に努め、組織の活用を図りながら、よき学級・学年文化の醸成に努める。
- ③ 短学活、給食指導、清掃活動等の時間での生徒の様子を観察し、多面的に生徒理解をする。
- ④ 学級通信、学年通信、校報を定期的に発行し、家庭との日常的な連携を深める。
- ⑤ 学級・学年経営案に基づき、学期毎の評価を加えながら、目標の達成をめざす。
- ⑥ 動き（適時性）のある掲示等、学習にふさわしい教室環境整備に努める。

(5) 生徒指導の充実・・・心を耕し、安定した学校生活を送らせるために

- ① 機を逃さず粘り強い指導で基本的な生活習慣の定着に努める。
- ② 生徒理解を深め、いじめ、問題行動等の早期発見・早期対応を行い、組織的に取り組む。
- ③ 相談会議や相談週間など相談体制を活用し、他機関とも連携し不適應生徒の支援を行う。
- ④ 生徒指導の3機能（自己決定の場の設定・自己存在の場の決定・共感的関係の構築）を生かし、個の「居場所」確立のための支援をする。
- ⑤ 生徒指導事例研究会を設定して、学級づくりや情報モラル等の指導力の向上に努める。
- ⑥ 正しい服装、挨拶の励行、時間厳守等、規律のある落ち着いた生活に必要な基本的な生活習慣

を徹底する。

- ⑦ 登下校時の自転車通学マナー、安全意識の高揚と実践力を高める。
- ⑧ 家庭、地域との情報を共有し、生徒の健全育成をめざす。

(6) 生徒会活動の活性化 ・ ・ ・ 活力ある生徒を育てるために

- ① 個の問題意識を学級内の意見交流まで高め、積み上げを図っていく。
- ② 学級での意見を基に、学年の枠での集会活動の活性化をめざしていく。
- ③ 所属感や達成感を持たせ、意欲的な生徒会活動を展開するために支援を継続していく。
- ④ 生徒会リーダーの育成をし、日常的な生徒の主体的活動や自治能力を高めていく。
- ⑤ 全校、専門委員会、学年、学級の組織の連携を図り、組織的で創造的な活動を展開する。

(7) 部活動の充実 ・ ・ ・ 「心を育てる部活」のためのマネジメント力を高める

- ① 挨拶、身なり等の基本的なマナーや行動を重んじる「心を育てる」部活動をめざす。
- ② 生徒数の減少や生徒の興味関心の多様化に対応した、望ましい部活動の在り方を模索する。
- ③ 花巻市の方針に沿い、適切な休養日・活動時間の設定で、節度ある活動を展開する。
- ④ 顧問は、部活のマネジメント力を高め、父母会との連携、外部指導者の意思疎通を強化する。

(8) キャリア教育の充実 ・ ・ ・ 南城中の「生き方教育」を確立する

- ① 生徒の自己実現に向けて、自己理解を深め将来にわたる生き方を考える指導に努める。
- ② 職場体験の在り方を検討し、「働くということ」の理解に焦点化した学習を実施する。
- ③ 発達段階に応じた進路指導計画に基づき、正しい進路選択能力を育成する。

(9) 特別支援教育の充実 ・ ・ ・ 思いやりがあり、心の通い合う学校をめざして

- ① 教師間の相互理解と連携を深め、全校、全職員が関わる指導体制を確立する。
- ② 当該学級、生徒との日常的な交流を図り、相互の生徒の豊かな人間性を培う。
- ③ 指導内容の吟味と指導方法の工夫を行い、個に応じた継続的な指導の充実を図る。
- ④ 保護者との関係を密にし、関係機関とも連携して適切な指導を進める。

(10) 研究・研修の充実 ・ ・ ・ 師弟共に、地道に「力」をつける研究を

- ① 市教育研究所の学力向上事業と連携し、授業改善と学習意欲の向上に努める。
- ② 授業研究会や日常的な授業参観を進め、授業の質の向上をめざす。
- ③ 個々人の指導力を高めるための研修機会の確保と研修会参加を奨励する。

(11) 学校環境の整備 ・ ・ ・ 古くても「きれい」と言われる学校に

- ① 校舎内外の日常清掃に努め、公共物を大切にす態度を育てる。
- ② 適時性のある校内美化や掲示について、生徒会専門委員会とも連携して通年活動をめざす。
- ③ 定期的な安全点検を実施し、早急な処理と施設・設備の事故の撲滅をめざす。
- ④ 危機管理マニュアルに即した訓練を行い、その内容を確認するとともに、訓練後には「危機管理マニュアル」の見直しを行う。

(12) 開かれた学校づくりの推進 ・ ・ ・ コミュニティスクールの活用をとおして

- ① 地域の行事やボランティア活動への積極的な参加を奨励し、地域との連携を深める。
- ② 教育活動の情報を地域に発信するとともに、学校評価を利用して学校経営に生かす。

③ コミュニティスクールの機能をいかし、地域の教育力の活用、幅広い教育環境作りを進める。

(13) 組織体としての充実 ・ ・ ・ ベクトルを一にした同僚性の高い職場に

- ① 校内の諸組織の機能を活用し、効果的な学校運営を図る。
- ② 互いに協力し合う職場風土を作り、同僚性を職務遂行に反映させる。
- ③ 各分掌における主任のリーダーシップのもと、各所掌事項を評価しながら、関係職員すべてが学校経営に参画しているという所属感、連帯感を持って職務にあたる。

5 令和5年度の学校経営の重点

長い歴史の中で培われてきた校風や伝統を基盤にし、宮澤賢治や富士大学をはじめとする花南地区の教育資源・財産を有効活用しながら、新たな学校文化の創造に努め、学校教育目標の具現化をめざし、次の重点により学校経営を推進する。

(1) 目指す資質・能力の育成に向けた教育課程の編成・実施

- 学習指導要領の趣旨の具現化を図るため、生徒の実態をふまえ、生徒の視点に立った指導の実践を図る。
- 全国学力・学習調査、岩手県学習定着度状況調査、CRT 検査等の諸調査結果を分析し、授業改善の方策を立て、「授業がわかる」生徒の割合を増やす。
- 「ICT の活用」にかかわり、授業構築と情報モラルの研修及び実践を図る。
- 地域の教育資源・財産の有効活用を図り、特色ある行事や取り組みを展開する。
(復興学習の継承、「賢治の精神にふれる集会」の実施など)

(2) 学習・指導の継続的な改善に努め、確かな学力の定着を図る。

- 南城スタンダードをもとに小中9年間の中で学習規律の確立と学習環境・条件の整備を進める。**(コミュニティスクール小学校との連携事項)**
- 授業と家庭学習の連動を進めるために、「終末-家庭-導入の学習サイクル」「予習的課題」「ICT を効果的に活用した家庭学習」などを積極的に試行する。

(家庭での時間確保等についてはコミュニティスクール地域との連携事項)

- 各種コンクールや検定(漢字・英語・数学等)への挑戦を奨励する。

(3) 日常生活の中で道徳的価値を感じとらせ、実践しようとする態度を養う。

- 家庭・地域(教振、PTA)と連動した生活規律確立のための取り組みを行う。

(早寝早起き朝ご飯等の生活規律についてはコミュニティスクール地域との連携事項)

(4) 健全な心身を育む生徒指導と教育相談の充実に努め、「自分の居場所」を実感できる教育活動を展開する。

- 「いじめ防止基本方針」に基づく未然防止・撲滅のための取り組みを推進する。

(いじめ調査や携帯活用調査等の実施と迅速な対応など)

- 教育相談を強化し、不登校・別室登校生徒の解消をめざす。

(5) HR、生徒会(とりわけ応援団リーダーの育成)、充実と自主的・自治的活動による新たな

な校風づくりに努める。

- 日常活動に、目的的・創造的な活動を仕組み、生徒会活動を活性化する。
- 計画的なリーダー養成（執行部・応援団）による校風・規律の確立を図る。

(6) 「心を育てる部活」を主眼に置き、適切な部活運営に努める。

- 「生徒の自主的活動」である部活動の基本に返り、生徒の思いや考えを尊重し、それを最大限活かしてやれる部活運営・指導を心がける。
- P T A「部活申し合わせ」の精査・徹底を図り、休養日等の確実な設定など部活動の適正・健全化を進める。
- 顧問は、父母会、コーチとの連携を主眼に「マネジメント能力」を高め、発揮できるよう努める。

(7) 勤労の喜びの体得や自己実現意欲の高揚を図るキャリア教育を推進する。

- 職場体験学習、上級学校調べ、ボランティア活動等の取り組みを、系統性や実効性の視点から見直し、再構築する。
- 職場体験学習は、趣旨や場所、内容を「勤労の意義・意味の理解」に焦点化して計画を再構成する。

(8) 「共に支え、共に生きる」特別支援教育をめざし、関係機関と連携しながら推進する。

- 全校で取り組む必要があることから、特別支援教育に関する研修や、状況に応じたケース会議、校内就学支援委員会の開催等により、特別な支援を要する生徒の理解に努め、指導の充実を図る。
- 小学校や進路先との確実な引き継ぎを行う。

(9) 創立 70 周年の年にあたり、郷土を知り(学び)、郷土を愛する(誇れる)態度を育てる。

- 地域活動への積極的な参加を促す。
- 南城中同窓会と連携しながら郷土理解学習を推進する。
- 富士大学とのコラボレーションの機会を創出する。
- 宮沢賢治という郷土の宝（教育資源）の有効活用を推進する。

(10) 食の教育や防災・安全教育に力を入れ、生涯にわたって心身共に健康で豊かに生き抜こうとする「強さ」を育てる。

- 防災計画の整備と実際に生きる防災訓練を工夫する。
- 自転車通学に対する安全指導を強化し、保険等への加入を促進するとともに、悪質なものには毅然とした姿勢（「禁止」措置等）で対応する。
- 新型コロナウイルス感染症に対して確実に対策をする。（生徒への指導、校内消毒、保健所、学校医等の関係機関への連絡体制等）

(11) 「共に明日を創ろう」という姿勢で復興教育をさらに展開する。

- 全体指導計画の策定と自ら汗を流す「復興学習」とおして、「いきる」「かかわる」「そなえる」の教育的価値を風化させることなく確実に伝承する。

(12) 校舎の使い方を考え、感謝の心を持って大切に使う態度を育てる。

- 生徒による修繕・清掃活動を推進する。

(13) 学校事務の効率化を図るとともに、教育環境の整備を行う。

- 文書・金銭・情報等の管理を一層強化するとともに、効率的で適正な学校集金の在り方・方法を模索する。
- 施設、設備等の不備への迅速な対応を心がける。

(14) ベクトルを揃え、全職員が同じ方向に向かって連携できる同僚性の高い職場をつくる。

- 構成員一人一人の個性や特徴を活かしながら、相乗的に高まり合える、あるいは補完しあえる職場風土（あるいは組織）づくりに努める。
- 「報・連・相」の基本を徹底する。
- 業務の見直しや改善を図り、全教職員がゆとりを持って生徒の対応や授業準備等の業務に専念し、健康でやりがいを持って働ける職場づくりに努める。勤務時間管理、校内衛生委員会等をとおして、教員の働き方改善の意識改革を推進する。